

トマトサビダニの分布拡大と見分け方

トマトサビダニ (*Aculopus lycopersici* Massee) は、1917年にオーストラリアで発生記録があり、その後、ニュー・ジーランドから発見され、1937年にMasseeにより新種として記載された。

1940年にカリフォルニアでの発生が確認されて以来、トマト栽培の世界的な普及と交通手段の発達に伴い、1995年までに高緯度地域を除くほぼ全世界に分布するようになった。我が国では1986年に沖縄県で初めて発生が確認され、3年後には関西地方に広がった。現在では関東地方以南の太平洋側を中心に発生している。

本種の休眠は知られていないが、1.1℃で10日間生存が可能で、施設内や無霜地帯など冬場に寄主植物のある場所では越冬が可能であると考えられることから、関東地方以北への分布拡大の可能性は十分にあるものと思われる。本種は多くのナス科植物に寄生するため本種の未発生地域では、トマトのみならず、パレイショ、ナス、ペチュニアなどにおける発生にも注意する必要がある。

トマトに寄生するフシダニは世界で2種が知られている。このうち、*Aceria lycopersici* (Wolffenstein) (*Aceria*属は後体部の環節数が背面と腹面でほぼ同じ。)は本邦未発生であるため、トマトを

加害するのは我が国では本種のみである。正確な種の確認のために、生態並びに形態的特徴を以下に解説する。

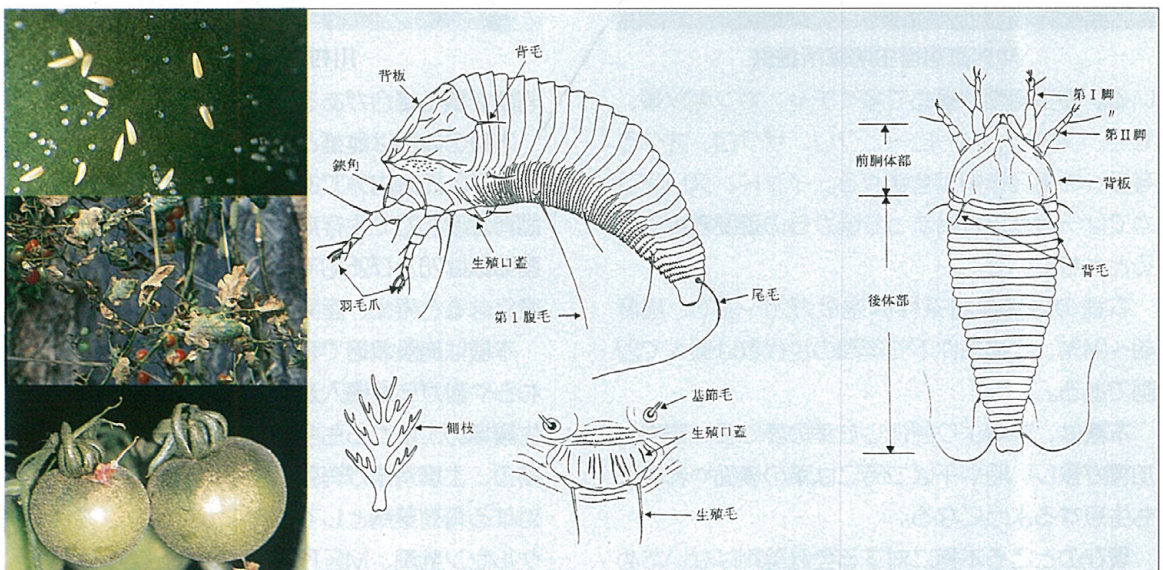
【生態】フシダニは卵からふ化したものが第一若虫で、以後第二若虫を経て成虫となる。本種は、卵から次世代の卵を産むまでに21℃で約10日間である。移動分散は寄主植物に付随するほか、人に付着したり、昆虫や風に乗って行われると考えられている。

【形態】卵：直径55μm。産下時は乳白色で後に黄褐色に変る。

第一若虫：体長90-100μm。半透明の白色。

第二若虫：体長140-160μm。体色は黄色。背毛は背板の後縁上にあり、後方へ向く。後体部環節は完全で微小なこぶがある。

成虫(図参照)：体形はくさび型。体長150-200μm、体幅55μm。体色は黄赤褐色。背板は三角形に近く幅は長さの1.2倍、先端は口吻上にわずかに張出し、1対の背毛がある。背毛は後側方へ向き、長さは背毛間の1/3。後体部環節数は背面で27、腹面で60-65。腹面の各環節には微小なこぶがある。生殖口蓋がある。脚の付節末端の羽毛爪の側枝は4裂となる。



写真提供 静岡県病害虫防除所 上：成虫、幼虫、卵 中：トマト茎葉の被害 下：トマト果実の被害